

新日本保険新聞

(損保版)

第1～4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2024

シンニチ保険Web

www.shinnihon-ins.co.jp

購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード

DELMARE

2024年4月1日 AMまで

*偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

飽くなき姿勢を持ち ガバナンス態勢の構築に努める

日本代協 2023年度臨時総会を開催



小田島会長

日本代協(小田島綾子会長)は3月8日、東京・千代田区の損保会館で2023年度臨時総会を開催した。総会では2024年度事業計画承認の件、正会員会費額承認の件、収支予算承認の件について審議し、いずれも承認可決された。

保険を選ぶ前に代理店を選ぶ 保険のプロとしての存在意義高める

議案審議に先立ち挨拶した小田島会長は「保険を選ぶ前に代理店を選ぶという考えのもと、お客様や地域からさらに信頼される保険のプロフェッショナル集団として存在意義を高めていきたい」と述べた。

挨拶の中で小田島会長は「自然災害についても言及。」「時を待たず発生する地震の被害の大きさを考えるに私たちが不安は募る。改めて自然災害・地震の恐ろしさや保険の重要性を、お客様との直接の接点を持つ代理店の立場から考えたい。万が一の下支えになる保険にお客様が期待することを表現していくためにも、

また、不祥事が相次いだ昨今の業界状況を踏まえ、代理店個社におけるガバナンス体制の構築に向けた取組みについては「改めて会員自身も自社のガバナンス体制を客観的に見つめる必要がある。自社だけでなく飽くなき姿勢をもってガバナンス

させたもの。

総会閉会の際は日本代協副会長の小俣藤夫氏が挨拶。「損保各社では今後、(代理店評価を)規模や増収から品質に大きく舵を切ると聞いている。これは代理店の価値がますます重要なものになってくるというのだ。正しい競争の中で互いに高め合い切磋琢磨していくことで、業界としてお客様に利益をもたらしてい

損害保険トータルプランナー記念品授与式

新たに62名が認定を取得

日本代協の東京ブロック(東京代協)は2月14日、東京・新宿の京王プラザホテルで損害保険トータルプランナー記念品授与式



記念品授与式の参加者

と式を開催した。昨年度にトータルプランナーの認定を新たに取得した募集人は62名。このうちの17名が当日の授与式に出席し、東京代協の廣瀬城児会長から記念品が手渡された。また、当日は日本代協の小田島綾子会長、損保協会の大知久一専務理事がそれぞれ挨拶し、認定取得者を称えた。主催者を代表して挨拶した廣瀬会長は「今年度はコンプライアンスと顧客本位の業務運営を実践することで業界全体が再スタートする年になる。私たち保険代理店も、お客様に切実にこれからの先、さ

年々4回目となる金融庁保険課長との意見交換会を開催した。会では金融庁

保険課長と全国の代協会長が意見を交えるもので、保険会社とのコミュニケーションの場として、二ヶーションの中で抱える課題や顧客本位の業務運営の実践に向けた取組

利用した交流会を実施した。損保協会は、一般消費者に向けた損害保険トータルプランナーに関する広告の出稿や教育プログラムのカリキュラムの見直しなどにより、引き続きの周知や魅力の向上に努めていきたいと考えている」と述べた。

その後、新規認定取得者の中から入口泰之氏(株式会社MAパートナーズ)、田口大輔氏(株式会社三栄)、橋本健太郎氏(有明社)、橋本健太郎氏(有明社)の3氏に「損保協会の今後の取組についてお話しする中で、損保協会の取組は、損保協会では例年12月、損害保険トータルプランナー新規認定取得者向けの記念式典を開催している。昨年12月13日の開催の際は新しいプログラ

方、保険会社との連携の構築などにも力を入れていきたい」と述べた。田口氏は業界の不祥事の中で、私に